

「学びのデザイナー」としての 教師をめざす

～「学習者のやる気に火をつける～」

嶋田 和子

アクラス日本語教育研究所

kazushimada@acras.jp

1. 「学ぶこと」を捉え直す
～「受け身の学び」から「主体的・協働的な学び」へ～
2. 教師ができること・すべきこと
 - 1) 「気づかせ屋」としての教師
～学習者の中にあるものを引き出す～
 - 2) 「仕かけ屋」としての教師
～学習者のやる気に火をつける～
 - 3) 「学び続ける人」としての教師
～「学びの共同体」の重要性～

1. はじめにちょっと一言

「学習者が満足する授業」を考えるには、
「教師には何が求められているか」を考える必要がある。



「教師力」を磨くことに目を向けよう！

< 教師力の涵養 >

涵養

養成

「水が自然に染み込むように、無理をしないでゆっくりと養い育てること。」

養い育てること。また、教え導いて一定の技能を身につけさせること。

教師力も、置かれた環境・状況、人との関係性において、水が自然に土の中に浸透していくように、育まれるもの。

現場では.....

いまだに「何を・どう教えればいいのか」といった技法や具体的な手法にばかり目が行っている教師が多い。



そのため、ただ「授業をこなす」「知識を教え込む」ことに汲々となっている。

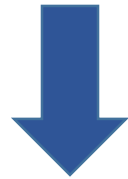


それでは「学習者が満足できる授業」の実現は難しい！



2. 「学ぶこと」を捉え直す

「受け身の学び」から「主体的・協働的な学び」へ



21世紀の教師像

- 「教える専門家」から「学びの専門家」へ
- 「授業技術を中心とするものから、子どもの学びのデザインとリフレクション(省察)を中心とするものへと変化している」

(佐藤:2015,p.42)

21世紀の教師像

- 「日本の教師は、教科書を教えテストで評価することはできても、教科書と資料から学びをデザインし、協同的学びを組織し、その学びの意味をリフレクションによって発見し探求する能力は不十分である。

いまだに教師主導の教え込み方式の授業が行われている。

「基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるようにすることが重要である」

(中央教育審議会,2014.11.20)

課題発見
解決能力

主体的・協働的に学ぶ学習
の重要性

日本語教育の現場での声を拾うと……

- ・毎日のことで精一杯。新しい動きはよく分からない。
- ・分かっているけれど、今の現場・学習者では無理。
- ・分かっているけれど、どうやっていいのかが分からない。



- 現在多くの授業で教えられているのは、引用ゲーム
- 引用ゲームをさらに強化するのが、トレーニング中心主義
- トレーニング中心主義は、言葉から生命力を奪ってしまいかねない。

(柳瀬、2015,pp.5-9)



3. 教師ができること・すべきこと

- ① 「気づかせ屋」としての教師
～学習者の中にあるものを引き出す～

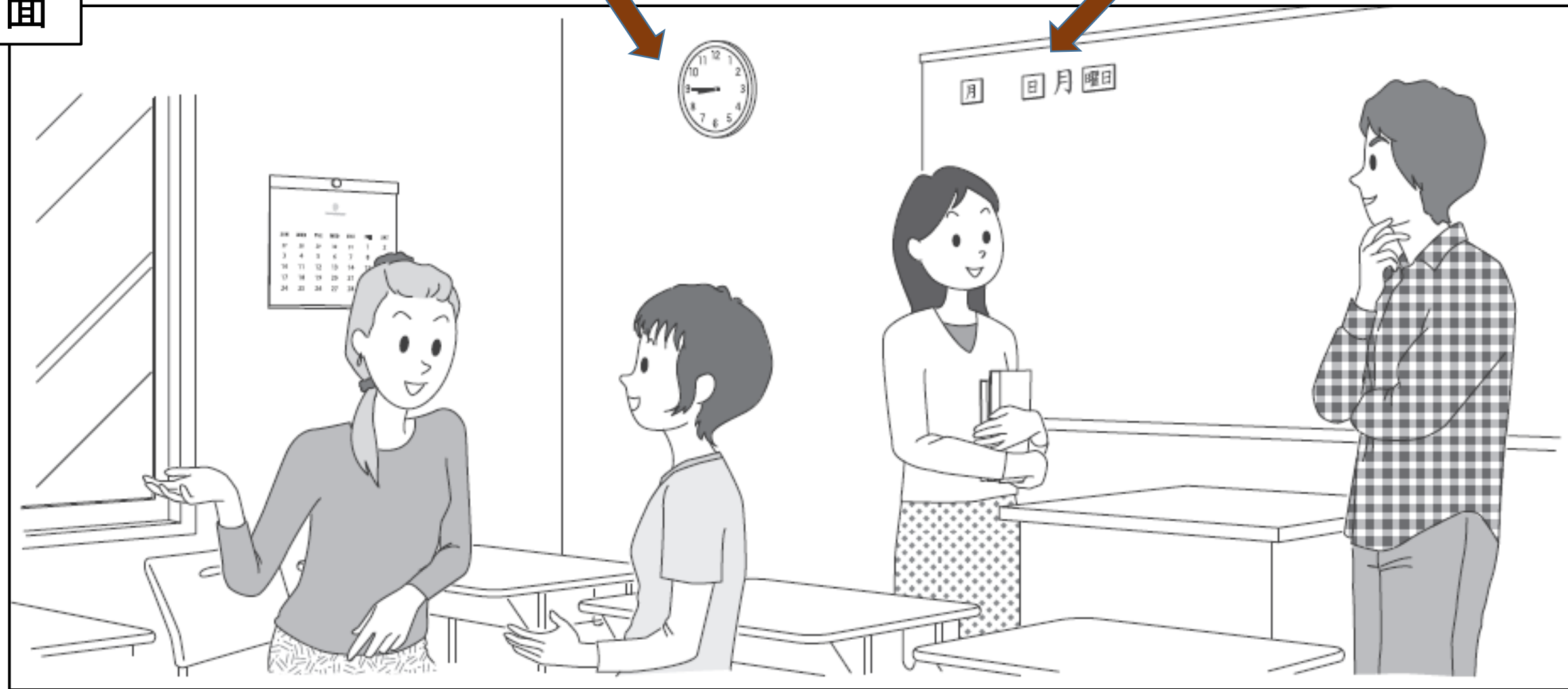


◆「教師＝教える人、学習者＝教えてもらう人」ではない！

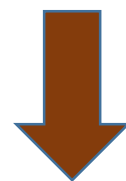
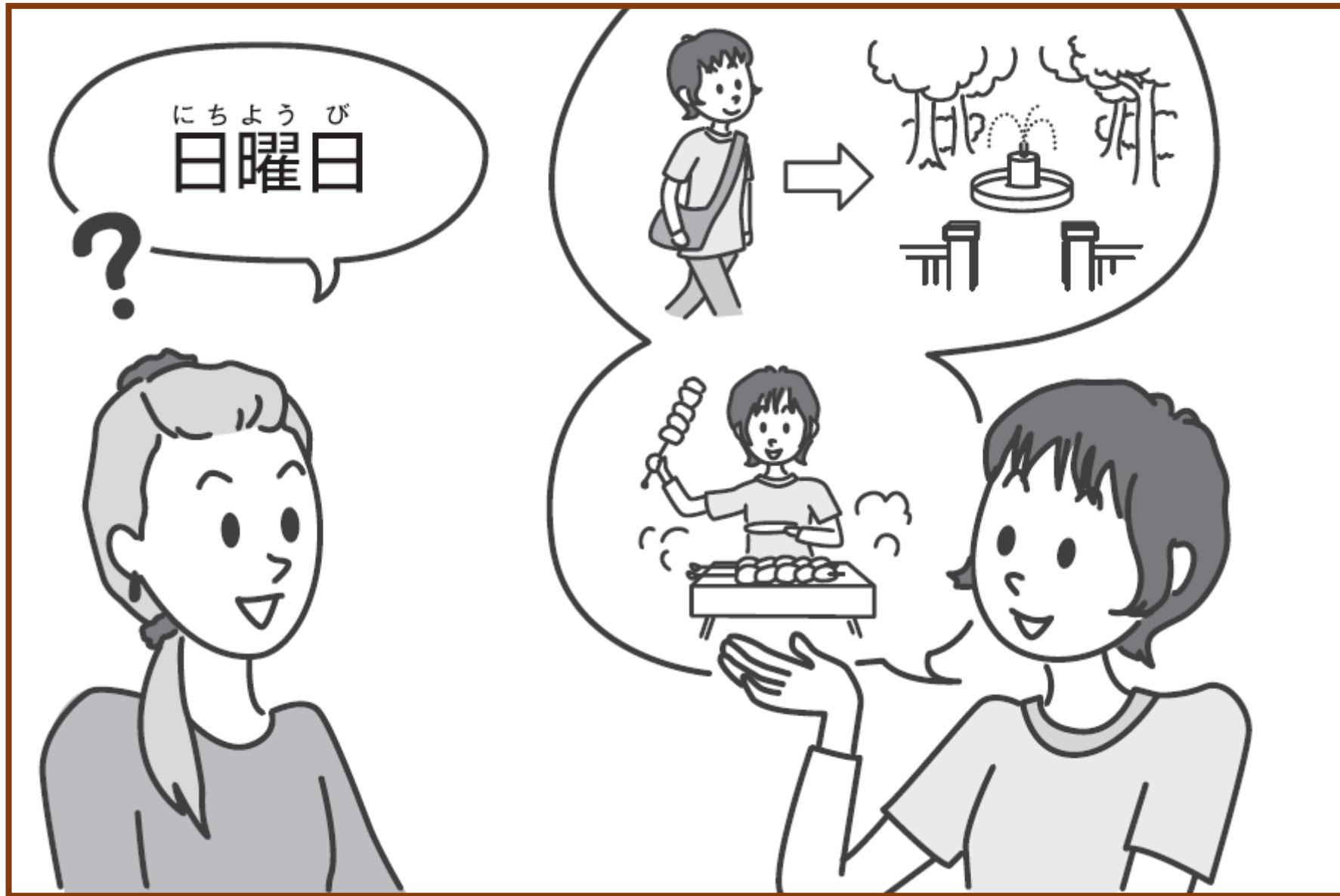
<「気づかせ屋」としての教師>

例①「過去形」

場面



過去形で
言いた
い！でも、
日本語で
何て言え
ばいいん
だろう？



『できる日本語初級』p.84

CDで会話を聞いて、自分で発見！



アンナ：パクさん、日曜日、何をしましたか。

パク： 公園へ行きました。公園でバーベキューをしました。

アンナ：そうですか。

あっ、そう
言えばい
いんだ！

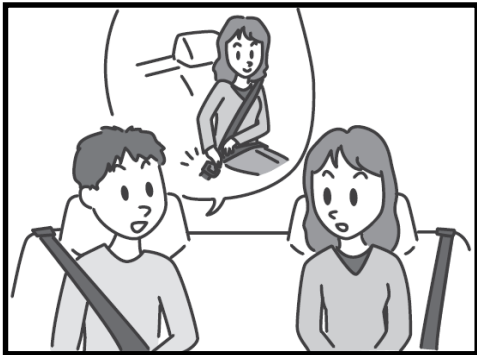
なるほど、
分かった！

それから「練習」をするからこそ、
意味のある、主体的な練習になる。

例②「終助詞」

転校生が、初めて見た終助詞「よ」について、教師に質問をしました。皆さんだったら、どうしますか。

?



A: あ、Bさん、シートベルトをしなければなりませんよ。

B: あっ、そうなんですか。知りませんでした。



『できる日本語初級』<14課>p.244

学習者B: 私は知っています。友達は知りません。それで、
教えます。ええと、「試験はいつからですか」、
友達が聞きました。「12月3日ですよ。」

学習者A: ああ、分かりました。

学習者C: 親切ですね。

学習者A: 親切？ 親切は何ですか。

学習者C: ああ、Aさんは先週この学校に来ましたから、まだ
勉強していませんね。ええと、親切は……………。

(続く)

教師がすぐに説明
を始めない！

他の学習者は、これまでに何度も学んでいること。



「自分の日本語」で説明することを大切に！

学習者の既有知識を活用！

主体的な学びを重視！

3. 教師ができること・すべきこと

②「仕かけ屋」としての教師

～学習者のやる気に火をつける～



例

◆「深い対話」を仕かける！

「深い対話は、知的爆発、知的化学変化が起こり、
そこから新たな知恵や価値が共創されていく」

◆「伝え合う・通じ合う・響き合う・創り合う対話力」

例③「読み」

2. 赤いです。そして、丸いです。
甘い果物です。


「りんご」は赤いですか？


問題を作ってクラスメイトに
出してみましよう。


日本*知る①


日本語でクイズをしましょう！


これは何でしょう？

1.  白いです。耳が長いです。目が赤いです。
答え

2.  赤いです。そして、丸いです。甘い果物です。
答え

3.  速いです。そして、便利です。でも、朝、とても人が多いです。大変です。
答え

4.  色は白やピンクなどです。とてもきれいです。季節は春です。
日本の「国の花」です。
答え

5.  白いです。そして、黒いです。大きいです。
でも、とてもかわいい動物です。ふるさは中国です。
答え

問題を作ってクラスメイトに出してみましよう。

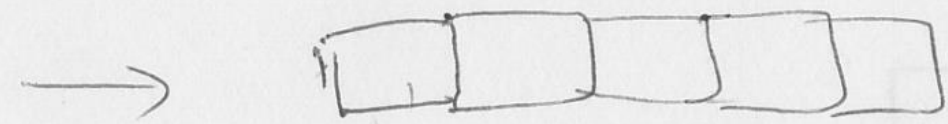
58

どんどん作り始める！

初級スタート2週間の学習者

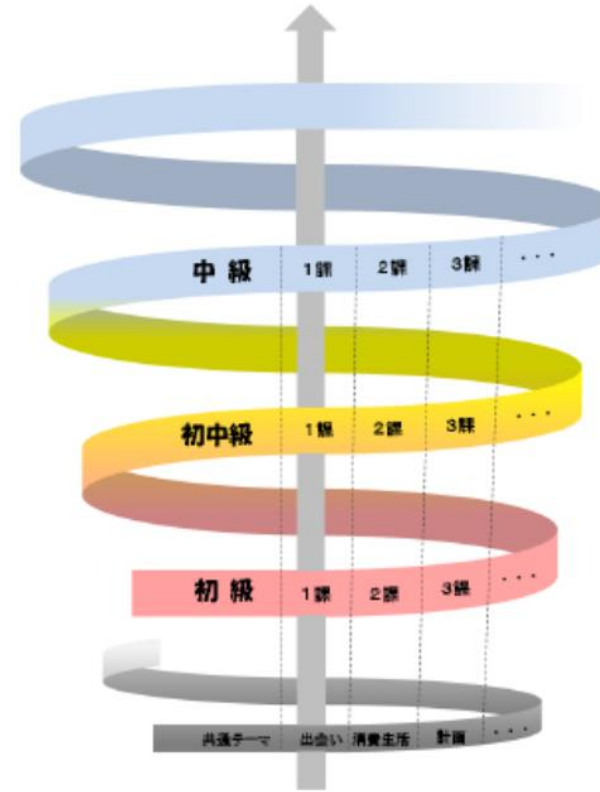
6. "ゆきか" あります。ネパール にも あります。

④ "いちどん たが" です。



エベレスト

- 作る楽しさ
- 伝え合う楽しさ
- 学び合う楽しさ
- 伸びを実感できる喜び

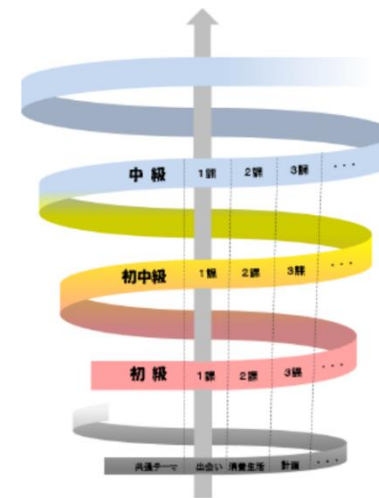


スパイラルな学びを大切に！

例：〈スリーヒントゲーム ➡ なぞなぞ〉

- ◆知っているのに、いつも質問します。
- ◆とても高いですが、草より低いです。
- ◆立っているとき、ヨコです。寝ているとき、タテです。

例： 幸せの〈し〉—「壺から拾まで」



受験のとき、韓国では「落ちる」という言葉が、日本では「すべる」という言葉が禁語だと言われ、「し」は死の発音だと言われ、人から嫌がられているようなことがあります。こんなふうにもわたしも言葉に支配されている人間の1人であって、受験のとき、電車に乗るときに「5号車がいいな」とか、「今日のランチの合計が777円だったから運がよさそう」と考えたりします。「し」は「幸せ」の「し」だったらどうだろうと思ったりもします。電車の番号を見ていて急に「壺から拾」を思いつきました。

壺は いちにち考えて悩んだときが雨の日だったとしたら
弐は 虹咲く空はその答えだと思う。
参は さんざん悩んでみても今は答えが出なくても
四は 幸せになる答えが必ず浮かんでくること。
伍は GOするしかないんでしょうか。GOしようじゃないか。
六は ロックした心を開いて
七は 7つの色に輝いている答えを見つけて
八は 蜂のようにめいっぱい羽ばたきをめざして、最後に
九は きゅうっと抱きしめ合いながら話してあげましょう、と。
拾は じゅうぶんがんばりました。お疲れ様。

『ワイワイガヤガヤ 教師の目、留学生の声』pp.175-177

教師に求められるのは、

こうした対話が生まれる学習環境をデザインすること。

そして、対話には「唯一の正解」はないことをよく知ること。

教師とは知識を教え込む人ではなく、

学習者の学びをサポートする人。

自分自身を「舞台上に上がった賢人」に見立てるような伝統的なものではなく、むしろ、「側に付き添う案内人」でなければならない。

(ACTFL-OPI, p.121)

3. 教師ができること・すべきこと

③ 「学び続ける人」としての教師 ～「学びの共同体」の重要性～

教師の学びは、日常の実践の中で不断に生成され、その実践の文脈・状況に相即不離な状態でこそ真に理解され、その重要性や機能もまた**具体的な実践の文脈・状況の中でこそ実感され確認される。**

(山崎:2002,p.363)

◆「個人力」から「チーム力」へ

チームは、ある共同の目的、目標、任務を共有し、達成するための複数の個人であり、シナジー効果を結果に期待されるもの。

グループは、寄せ集められた個人の集まりである。

チーム構築には、
夢とビジョンに共感共有し、同意。
相互責任と役割分担に留意。

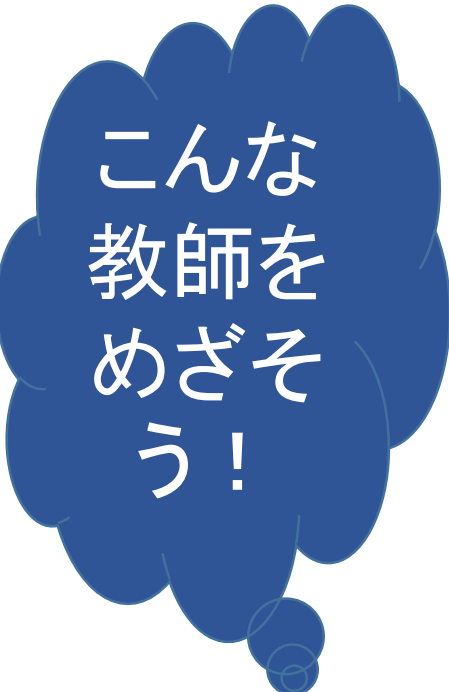
実践を
共有し、
「対話」
をする

「人とつ
ながる
楽しさ」
を大切
にする

日々の実践の共有・学びの共同体づくり

「どんなに優れた授業を行っていても、授業を公開しない教師は、子どもを私物化し教室を私物化し学校を私物化し、教職を私物化していると言われても仕方がない。

(佐藤:2015,p.124)



こんな
教師を
めざそ
う!

1. クリエイティブに、またクリティカルな視点を持って物事に取り組むことができる。
2. 物事・事態に臨機応変に対処することができる。
3. ミクロ・マクロの両面で物事を捉えることができる。
4. 予測・推測ができ、見通しを立てることができる。
5. 内省しながら実践することができる。
6. 自分を客観的に捉えることができ、また、相手の立場に立って考えることができる。
7. 「協働」を大切にして、仕事を進めることができる。²⁷

(嶋田:
2008,p.261)

2009. 1. 11 (朝日新聞) 野村克也の言葉

他の世界でも
同じこと...

<原文を次のように変更>

監督・リーダー

選手

試合



教師

学習者

授業

- ◆目に見える**学習者**の行動を見るのは「**観察**」であり、目には見えないが**学習者**をそういう行動に駆り立てる心の内を見るのは「**洞察**」であると思います。すぐれた**教師**であるには、この**洞察力**が必要なのだと思います。
- ◆**学習者**に関する資料もデータも、洞察力を駆使して**学習者**を見極め、自信を持たせ、本人に気付かせる必要がある。**教師**の仕事のほとんどは、この「気付かせ屋」であると思います。

◆**授業**の中で**学習者**一人ひとりを最後の瞬間まで活かしたか.....自信を持たせてやることができたか。いつも自問自答です。

◆私の考えの根本にあるのは、今日の**授業**もみんなの力を引き出したかということです。

観察 → 洞察

「手を振ってるんじゃない 溺れてるんだ」

スティーヴィー・スミス

誰にも聞こえなかった あなたの声は

でもまだ死にきれずうめいている

ぼくはきみらが思っていたよりずっと遠くにいたんだ

手を振ってたんじゃない 溺れてたんだ

参考文献

河北隆子・脇経郎(2006)『教師力×学校力 ダイナミック変革への実践本』

明治図書

佐藤学(2015)『専門家として教師を育てる—教師教育改革のグランド

デザイナー—』岩波書店

嶋田和子(2009)『ワイワイガヤガヤ、教師の目、留学生の声』教育評論社

嶋田和子(2008)『目指せ、日本語教師力アップ！—OPIでいきいき授業』

ひつじ書房

多田孝志(2011)『授業で育てる対話力—グローバル時代の「対話型授業」

の創造』教育出版

柳瀬陽介・小泉清裕(2015)『小学校からの英語教育をどうするか』岩波

ブックレット922

参考文献

山崎準二(2002)『教師のライフコース研究』創風社

ACTFL(1999) Oral Proficiency Interview Tester Training Manual.ACTFL.

(牧野成一監修(1999)『ACTFL-OPI試験官養成用マニュアル』アルク)

New Directions Publishing Corporation.(郷司眞佐代編訳(2008)

『スティーヴィー・スミス詩集』土曜美術社出版)p.71

文部科学省初等中等教育における教育課程の基準等のあり方について
(諮問)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1353440.htm

<教材>

嶋田和子他(2011)『できる日本語 初級』アルク

嶋田和子他(2013)『たのしい読みもの55 初級&初中級』アルク